

研究プロジェクト活動報告

1. 文理融合の食文化研究

①趣旨：現在、世界中で「食」に対する関心が高まりつつあり、日本においても様々な角度から「食」の諸問題が議論されている。これらの議論の背景には、西洋科学文明の行き詰まりがある。「食」の現代的課題を解決するためには、世界的な視点で日本の「食」の問題を考えていく必要がある。また、数量化に象徴される栄養科学の視点からだけではなく、人文学からの視点を含めた複合的な文理融合の視点によって、「食」の問題に対処することが肝要である。本研究では、本学で研究・教育が蓄積されてきた国際日本学分野と食物栄養学分野の研究者・院生が合同で、これらの課題解決のために共同研究を行う。

②プロジェクト担当者：古瀬 奈津子（本学教員）

③学内研究員：

森山新（本学教員）

高崎みどり（本学教員）

頼住光子（本学教員）

香西みどり（本学教員）

村田容常（本学教員）

神田由築（本学教員）

宮内貴久（本学教員）

新井由紀夫（本学教員）

中村俊直（本学教員）

野田有紀子（本学リサーチフェロー）

④協力員：

島村裕子（本学大学院人間文化創成科学研究科研究員）、斎藤真希（本学院生）、矢田純子（本学院生）、百瀬みのり（本学院生）、矢越葉子（本学院生）、武内佳代（本学院生）、石井佐智子（本学院生）

⑤客員研究員：

マクシム・シュワルツ

（パスツール研究所名誉所長）

シャルロット・フォン・ヴェアシュア

（フランス国立高等研究院教員）

⑥活動経過：

(1) 催し

1. 食文化共同研究会

2009年7月21日（火）

於文教育学部1号館614室

出席者：古瀬、頼住、香西、村田、宮内、中村、シャルロット・フォン・ヴェアシュア

2. 食文化共同研究打ち合わせ

2009年8月7日（金）

於文教育学部1号館614室

出席者：古瀬、頼住、野田

3. USCとの共同ゼミ

2009年8月19日（水）

於文教育学部1号館817室

出席者：古瀬、野田、ジョーン・ピジョー（USC）、シャルロット・フォン・ヴェアシュア、矢越

2. グローバル時代の総合的日本語教育

(Holistic Education of Japanese Language in the Global Era)

①趣旨：グローバル時代にふさわしい総合的な日本語教育を模索する。日本学との学際的連携や文化理解教育のあり方、IT利用などについても考察する。

②プロジェクト担当者：森山新（本学教員）

③学内研究員：

佐々木泰子（本学教員）

④協力員：

石井佐智子（本学院生）、ナイダン・バヤルマー（本学院生、モンゴル・モンゴル教育大学教員）、河先俊子（本学院生）

⑤客員研究員：

李徳奉（韓国・同徳女子大学校教員）、徐一平（中国・北京日本学研究中心所長）、土屋浩美（米国・ヴァッサー大学教員）、岩崎典子（英国・ロンドン大学SOAS教員）、大島弘子（フランス・パリ第7大学教員）、三上京子（チェコ・カレル大学教員）、奥村三菜子（ドイツ・ボン大学教員）、岡崎恒夫（ポーランド・ワルシャワ大学教員）、瓜生佳代（ポーランド・ヤギェウォ大学教員）、ルビカ・ミチコヴァー（スロバキア・コメンスキー大学教員）、王冲（中国・大連理工大学教員）、チュオン・トゥイ・ラン（ベトナム・ハノイ大学教員）、小浦方理恵（タイ・チェンマイ大学教員）

⑥活動経過：

(1) 催し

9月1日～3月31日 多言語多文化サイバーコンソーシアムを結成、TV会議システムなどを用いて世界7大学が合同でジョイント授業を展開

参加大学：釜山外国語大学（韓国）、ヴァッサー大学（米国）、ボン大学（ドイツ）、ワルシャワ大学（ポーランド）、カレル大学（チェコ）、チェンマイ大学（タイ）、お茶の水女子大学（日本）
TV会議ジョイント授業：釜山外国語大学（11月13日、12月4日）、ヴァッサー大学（11月21日）、ボン大学（12月18日）

11月15日～22日 海外教壇実習（ヴァッサー大学）

参加者：吉田好美・王亜茹・鄭在喜（本学院生）
吉田好美・王亜茹・鄭在喜（2010）「ヴァッサー大学教壇実習報告（日本語教育）」『大学院教育改革支援プロジェクト「日本文化研究の国際

的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業篇』

11月17日 日本語教育ワークショップ（ヴァッサー大学）「Holistic Education of Japanese Language in the Global Era」（森山新）

12月15日 第4回国際日本学コンソーシアム日本語学・日本語教育学部会

司会：王亜茹（本学大学院生）

戴政宇（国立台湾大学院生）「日中両言語における同じ漢字を用いた動詞の表すそれぞれの意味領域の差異に対する比較研究—日本語動詞「飲む」と中国語動詞「飲」を中心に—」

徐蓮（本学大学院研究生／北京日本学研究中心院生）「日本語と中国語における〈深/浅〉の認知的対照研究」

金世恩（同徳女子大学院生）「韓国における日本語学研究の概観」

イソ・アバコーン（本学院生）「タイ語と日本語の文末詞についての対照研究」

徐一平（北京日本学研究中心所長）

「日本語教育と日本学研究の関係」

李徳奉（同徳女子大学校教員）

「韓国における日本学研究のジレンマ—日本語学・日本語教育学を中心に—」

大島弘子（パリ第7大学教員）

「フランスにおける日本語教育と日本学」

奥村三菜子（ボン大学教員）

「なぜ日本語を学ぶのか—ドイツの現状・課題・展望—」

1月26日 公開講演会「日本学研究と日本語教育との連携：ポーランドの場合」

講師

カタジーナ・ソンネンベルグ（国際交流基金・日本研究フェロー）

菅生早千江（本学院生）

司会 森山新（比較日本学教育研究センター長）

(2) 刊行物等

森山新 (2009) Language, Culture & Exchange (ポーランド・ザコパネで開催されたポーランド・チェコ・スロバキア 5 大学合同日本研究キャンプでの講演、2009年 4 月)

森山新 (2009) 「教授法研究の活性化のために：認知言語学からの提言」『月刊日本語』 9 月号、アルク

森山新 (2009) 「認知言語学と第二言語としての日本語教授法」国際シンポジウム「認知言語学の拓く日本語・日本語教育の研究と展望」招待講演 (同予稿集33-36)、北京大学

森山新 (2009) 「第二言語教育から多言語・多文化教育へ」(SLA関東・マルチリンガリズム研究会合同研究発表会シンポジウム講演)

森山新 (2009) 「日本における第二言語習得研究の軌跡と今後の展望：30年を振り返り、これからの研究を考える」(第二言語習得研究会第20回大会パネルディスカッション)

森山新 (2010) Holistic Education of Japanese Language in the Global Era, 『研究年報』 第 6 号

小浦方理恵 「北部タイにおける日本語教育の現状と課題－交流型日本語教育の試み－」, 『研究年報』 第 6 号

李徳奉 (2010) 「韓国における日本学研究的ジレンマ－日本語学・日本語教育学を中心に－」『大学院教育改革支援プロジェクト「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業篇』

徐一平 (2010) 「日本語教育と日本学研究的関係」『大学院教育改革支援プロジェクト「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業篇』

大島弘子 (2010) 「フランスにおける日本語教育と日本学」『大学院教育改革支援プロジェクト「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業篇』

奥村三菜子 (2010) 「なぜ日本語を学ぶのか－

ドイツの現状・課題・展望－』『大学院教育改革支援プロジェクト「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業篇』

3. 東アジアにおける比較儀礼史の研究

①趣旨：中国の礼が周辺諸国へどのように受容されていったのかを、日本を中心に究明する。その際中国との比較の視点を重視する。

②プロジェクト担当者：古瀬 奈津子 (本学教員)

③学内研究員：

岸本 美緒 (本学教員)

伊藤美重子 (本学教員)

野田有紀子 (本学リサーチフェロー)

④協力員：

東海林亜矢子 (本学院生)、矢越葉子 (本学院生)、重田香澄 (本学院生)

⑤客員研究員：

金子修一 (國學院大学教員)

妹尾達彦 (中央大学教員)

石見清裕 (早稲田大学教員)

藤森健太郎 (群馬大学教員)

稲田奈津子 (東京大学史料編纂所教員)

丁 珍娥 (韓国・韓日歴史共同研究委員会専門委員)

⑥活動経過：

(1) 催し

1. 公開講演会「隋唐時代の東アジアの国際関係」

王小甫先生 (北京大学歴史学系教員)

2009年10月30日 (金) 17:30-19:30

於文教育学部 1 号館 1 階大会議室

出席者：古瀬、岸本、野田、金子、石見、矢越、重田

概要：当日は、7世紀を中心とした東アジアの国際関係についてお話しいただいた。隋唐帝国の成立と高句麗、百濟、新羅など朝鮮半

島の国々との関係、新羅統一や渤海建国が東アジア世界に与えた影響などをふまえて、中国と日本の関係について、白村江戦を中心に話された。隋唐側から見た視点で一貫している点が注目される。当日は本学の教員・院生のほか、他大学の研究者・院生が70名ばかり集まり議論が白熱した。古代の日中関係について、日本・中国両国の学術的理解が深まる事が望まれる。

2. 国立台湾大学との共同ゼミ

「日中文化交流史—日唐令比較研究」研究会

2009年11月1日(日)・2日(月)

於国立台湾大学國科會人文學研究中心會議室
出席者：古瀬、野田、矢越、重田

概要：古くて新しいテーマである日中文化交流史について、近年中国で発見され注目されている天聖令という新しい令のテキストを中心に、台湾大学等とお茶大の院生と教員がホットな発表を行った。国立台湾大学歴史系の院生たちは、日唐令の比較研究という分野に挑戦し、お茶大の院生も自分の研究テーマを日中文化交流もしくは日唐令比較に関係づけて発表にのぞんだ。また、お茶大の院生も発表ごとにコメントを行う与談人を務めるために、他分野の勉強をすることができたのも収穫であった。

発表者とタイトルは以下のとおりである。野田有紀子「日唐後宮空間比較研究—禮空間としての後宮、労働空間としての後宮—」、重田香澄「平安時代の政務と漢籍」、古瀬奈津子「日唐營繕令營造關係條文の検討」、矢越葉子「官司における文書處理—正倉院文書と敦煌文書の比較を通じて—」。

(2) 刊行物

石見清裕「唐代内附民族対象規定の再検討—天聖令・開元二十五年令より」『東洋史研究』68-1、2009年6月、古瀬奈津子「日唐營繕令營造關係條文的検討」『中国法制史研究』

第16期、2009年12月。

野田有紀子「労働空間としての後宮—医疾令女医条を中心に—」『人文科学研究』6号、2010年3月。

4. 欧米における日本学

—日本美術研究を中心に—

(Japanese studies in Europe and United States – focus on Japanese Art History –)

①趣旨：欧米における日本美術研究に関する方法論の分析的考察を行う。欧米の研究者あるいは芸術家がどのように日本の美術を解釈してきたかを明らかにしながら、彼らの残した言説(内容、文化的背景、方法論)を分析し、日本国内での研究と比較しながら検討し、その特質を捉える。

②プロジェクト担当者(センター研究委員)：

ロール・シュワルツ=アレナレス(比較社会文化学)

③学内研究員(本学の教員など)：

秋山光文(比較社会文化学)

④客員協力員(学外の大学教員など)：

クリストフ・マルケ(フランス国立東洋言語文化研究所INALCO)

ニコラ・フィエヴェ(フランス国立科学研究庁CNRS中国日本チベット文明研究センター)

ヴェロニク・ベランジェ(フランス国立図書館東洋写本部)

オーレリー・サミュエル(ギメ美術館)

⑤活動経過：

1) ロール・シュワルツ=アレナレス

「日仏交流の中のテキストスタイル—技術デザイン、コレクション(第11回国際日本学シンポジウム セッションIIセッション趣旨)—お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター年報第6号(2010年3月)

2) 2009年7月5日 お茶の水女子大学比較

日本学教育研究センター第11回国際日本学シンポジウム セッションII 2009年7月5日
総合テーマ：日仏交流の中のテキスタイルー
技術デザイン、コレクションー

全体企画・コーディネイト：ロール・シュワ
ルツ＝アレナレス

司会：秋山光文（お茶の水女子大学大学院教
授）・ロール・シュワルツ＝アレナレス

講演者：

1 深井 晃子（京都服飾文化研究財団チーフ・
キュレーター理事）

「日仏交流の中のテキスタイル：ジャポニ
スムとモードの視点から」

2 オーレリー サミュエル（ギメ美術館クリ
シュナ・リブー織物コレクション担当）

「ギメ美術館蔵クリシュナ・リブー日本織
物コレクション：その研究と保存」

3 高木 陽子（文化女子大学教授）

「染型紙とジャポニスム」

4 円谷 智子（パリ第1大学博士課程）

「メッセージ媒体としての現代スカーフア
クセサリーに映し出された20世紀ーガリエラ
美術館コレクションー」

5 廣瀬 緑（パリ第7大学准教授）

「染織とグローバリゼーション：アンディ
エンヌ（更紗）からジャポニスムへ」

全体パネルディスカッション

司会：徳井淑子氏（お茶の水女子大学教授）

3) 研究調査：ロール・シュワルツ＝アレナレ
ス

研究課題：[ガストン・ミジョン、ルーブル
美術館初の日本美術コレクション学芸員]

科学研究費補助金：平成19年度科学研究費補
助金（基盤C）

研究代表者：ロール・シュワルツ＝アレナレ
ス

用務先：ギメ美術館附属図書館（フランス）、
ルーブル美術館学芸員図書館（フランス）

出張日程：平成21年7月25日～平成21年8月
15日

用務の概要と事業の関連について：

国立装飾美術館附属図書館（パリ）、ルー
ブル美術館学芸員図書館を訪問するガストン・
ミジョンに関する資料を集め複写した。

4) 研究調査：ロール・シュワルツ＝アレナレ
ス

研究課題：[率天往生の思想とそのかたち]

研究種類：平成20年度科学研究費補助金（基
盤B）

研究代表者：泉武夫（東北大学文学研究科教
授）

用務先 主張日程：琵琶湖文化館での成菩提
院本兜率天曼荼羅の調査/2010年02月16日

5) パリ第7大学との共同ゼミ（日本学）2009
年12月01日～12月04日

責任者：古瀬奈津子 大塚常樹 宮内貴久

全体コーディネイター：ロール・シュワルツ
＝アレナレス

12/01 コレージュ・ド・フランス極東研究
所図書館見学・調査

12/02 フランス国立東洋美術館見学・調査

12/03 ユネスコ本部 見学

12/04 パリ第7大学共同ゼミ（文学・歴史・
美術史・民俗学）

コーディネイター：ロール・シュワルツ＝ア
レナレス・Midori Hirose（パリ第7大学）

発表者：

お茶の水女子大学側：

大塚常樹「心象スケッチ「春と修羅」の深層構
造/阿修羅のドラマトゥルギー」

宮内貴久「福島県奥会津地方の建築文化ー番匠
巻物を中心にー」

芳賀祥子「獅子文六とパリ」

久保陽子「寺山修司作品における西洋からの引
用」

森暁子「『団扇絵づくし』ー挿絵と文章の響き

合いと、細やかな意匠—
 富永直美『『源氏物語』夕顔巻冒頭について—
 頭中将誤認説の可能性—
 原口碧「緑色の象徴に見る中世の色彩文化につ
 いての一考察」
 内山尚子「イサム・ノグチの作品研究:《ユネ
 スコ庭園》を例として」
 田端香里「近代日本における「床の間の空間」
 に関する一考察」
 パリ第7大学側：
 Brigitte Lefevre(ルフェーブル・ブリジット)「野
 上弥生子日記について」
 Tomomi Ota(太田知美)「恋愛論ブーム」にお
 ける『女人芸術』の位置」
 Didier Davin(ダヴァン・ディディエー)「狂雲
 集に見える一休の詩観」
 パリ第7大学の教員Annick Horiuchi, Cécile
 Sakai, Daniel Struve, Matthias Hayek、コレ
 ジュ・ド・フランス極東研究所図書館の
 Nathalie Cazal(司書)、Delphine Spicq(准教授)
 Sekiko Petitmengin(司書)、Kaoru Baba(司書)、
 ユネスコ本部のTania Fernandez de Toledo(学芸
 員)、フランス国立東洋美術館のHélène Bayou
 (学芸員)、Aurélié Samuel(研究員)、Keiko
 Omoto(司書)と意見交換を行った。

5. 近世日本港町の社会・文化構造

- ①趣旨：日本近世の港町は、ヒト・モノや情報が
 交流する拠点として、ひとつの都市類型を進化
 させてきた。本プロジェクトでは、具体的な諸
 社会集団から見た、港町独自の社会・文化構造
 を明らかにしながら、近世都市の特質を考察す
 ることを意図している。
- ②プロジェクト担当者名：
 神田由築(本学教員)
- ③学内研究員
- ④協力員

矢田純子(本学院生)

⑤客員研究員：

森下徹(山口大学 教員)
 後藤雅知(千葉大学 教員)
 町田哲(鳴門教育大学 教員)

⑥活動経過：

5月23日 7月シンポジウムに向けての研究会
 7月4日 第11回 国際日本学シンポジウム
 「日本近世港町の社会・文化構造」を開催研究
 発表
 矢田純子「オランダ商館長の江戸参府と鞆の
 浦」
 後藤雅知「近世福山藩領における保命酒生産と
 鞆町の社会」
 森下徹「尾道の仲背と仲間」
 町田哲「近世後期徳島城下近郊における『胡乱
 人』対策と四国遍路」
 司会：神田由築

6. 哲学、倫理、宗教、科学思想に関する 比較思想的研究

(A comparative study of philosophy,
 ethics, religion and scientific thought)

- ①趣旨：日本人研究者とフランス人研究者が協力
 して、日本と西洋との伝統思想や現代哲学の比
 較研究を行うことによって、日本思想、西洋
 思想の特殊性、独自性を浮き彫りにすると同時
 に、共通点についても理解をふかめる。さらに、
 人間の存在構造、認識構造の普遍性についても
 明らかにする。本研究プロジェクトは、フラン
 ス・クレルモンフェランのブレーズ・パスカル
 大学、哲学・合理性研究センターとの共同プロ
 ジェクトとなる。
- ②プロジェクト担当者：頼住光子(本学教員)
 ロール・シュワルツ=アレナレス(本学教員)
- ③学内研究員：
 高島元洋(本学教員)

三浦謙（本学教員）
 大久保紀子（本学非常勤講師）
 森上優子（本学非常勤講師）
 遠藤千晶（本学非常勤講師）
 木元麻里（本学非常勤講師）
 研究協力員：
 小濱聖子（本学博士課程）
 石崎恵子（本学博士課程）
 鈴木朋子（本学博士課程）
 斎藤真希（本学博士課程）
 徳重公美（本学博士課程）
 張可佳（本学博士課程）
 熊本幸子（本学博士課程単位取得退学）
 客員研究員：
 エリザベト・シュワルツ（ブレーズ・パスカル
 大学教員）
 エマニュエル・カタン（ブレーズ・パスカル大
 学教員）
 ローレン・ジャフロ（パリ第1大学教員）
 アラン・プティ（ブレーズ・パスカル大学教員）
 イブ・シュワルツ（エクス・マルセ大学教員）
 徐翔生（政治大学教員）
 吉田杉子（国学院大学非常勤講師）
 清水恵美子（茨城大学非常勤講師）

④活動経過：

フランスのブレーズ・パスカル大学との交流：
 これまでプロジェクト参加者がそれぞれに比較
 思想的観点から研究をすすめたその成果の一部
 を、お茶の水女子大学において開催された共
 同ゼミ・シンポジウム（2009年7月18日、テー
 マは「Thinking, Doing, Teaching」使用言語：英
 語）と、ブレーズ・パスカル大学哲学・合理性
 研究センターで開催されたシンポジウム（2009
 年12月11～12日、テーマは、「Personality and
 subjectivity East and West」使用言語：英語・
 フランス語・日本語）において発表し、学術交
 流を深めた。両シンポジウム開催にあたって
 は、プロジェクト担当者のロール・シュワルツ

先生も尽力された。特に、12月のフランスでの
 シンポジウムの際には、ブレーズ・パスカル大
 学学長に、本学羽入学長からの親書を奉呈する
 など、本学の今後の学術交流にとって重要な会
 となった。本プロジェクト参加者の発表は以下
 の通りである。

“Thinking, Doing, Teaching” (2009.7.18)
 Maki SAITO, Ochanomizu University, Tokyo :
 Shinran’s Other Power Nembutu
 Mitsuko YORIZUMI, Ochanomizu University,
 Tokyo : On Dogen’s Thought of Religious
 Practice and Enlightenment – An Attempt to Read
Genjo-koan of Shobo-genzo –
 Kumi TOKUSHIGE, Ochanomizu University,
 Tokyo: Ogyu Sorai’s Theory of Human Nature
 Chang Ko-Chia Ochanomizu University, Tokyo :
 The Ceaseless Production and Reproduction
 Theory of Ito Jinsai
 Motohiro TAKASHIMA, Ochanomizu University,
 Tokyo : *Food* in Shinto
 Emmanuel CATTIN, Université Blaise Pascal,
 Clermont-Ferrand : The Other House
 Elisabeth SCHWARTZ, Université Blaise Pascal,
 Clermont-Ferrand : Thinking, Doing, Teaching in
 Wittgenstein’s Tractatus
 Ken MIURA, Ochanomizu University, Tokyo :
 Laws, Rules and Particularism
 “Personality and subjectivity East and West”
 (2009.12.11~12)
 Alain PETIT, Université Blaise Pascal , Clermont-
 Ferrand : Henologic Impersonalism between
 Plotinus and Nagarjuna.
 Motohiro TAKASHIMA, Ochanomizu University,
 Tokyo : *Méditation et persona: des sens du*
recueillement dans le néo-confucianisme
japonais.
 Mitsuko YORIZUMI, Ochanomizu University, Tokyo
 : On Dogen’s Thought of the World of the Ultimate

Reality. An Attempt to Read Ikka-myōju (One Bright Jewel) of Shobo-genzo.

Laurent JAFFRO, Université Paris I-Panthéon-Sorbonne, Paris : Personal Identity and Morality
Emmanuel Cattin, Université Blaise Pascal, Clermont-Ferrand : Personality and nothingness.
Elisabeth SCHWARTZ, Université Blaise Pascal, Clermont-Ferrand: Wittgenstein and the shadow of the subject.

Ken MIURA, Ochanomizu University, Tokyo : The Subjective as Open System.

近代比較思想研究会：本プロジェクトの一環として研究会を定期的に開催した。近代日本の思想家を、世紀転換期の日本と西洋における思想の動向の中に位置づけ、その思想の特色や意義を明らかにすることを目的とする。月一回程度の研究会を開催し、国内外の参考資料に目を通し議論を交わすとともに、学外における研究会報告、論文投稿などを行っている。メンバーは客員研究員の森上優子と清水恵美子である。今年度は、思想家、宗教者、国際人としての、新渡戸稲造と岡倉覚三（天心）を取り上げ、二人の思想や信仰の相違点と共通点を浮き彫りにするため、テキスト分析や国内外の思潮との関係性などを検討した。

日本倫理思想輪読会：本プロジェクトの一環として輪読会を定期的に開催した。週一度会合を開き、日本倫理思想史を考える上で基本的な文献を講読した。メンバーは研究協力員の小濱聖子、鈴木朋子、徳重公美である。

7. 挿絵研究会

①趣旨：江戸時代になって開花した出版文化の中で、1650年代から多くの娯楽的な読み物（小説、名所案内記、遊女評判記など）に挿入された挿絵を読み解くことを目的とする。挿絵化した意図、構図、人物の衣装とその文様、髪型、

それに家屋、道具類、背景などを理解し分析する。前年度までは西鶴の浮世草子『懐硯』を対象としていたが、今年度からは新たに江戸の浮世絵師菱川師宣の絵本『團扇絵づくし』（1684年刊）について、東洋文庫岩崎文庫本の複製を主テキストとし、天理図書館本を参考資料として、読み進めている。

②プロジェクト担当者名：

市古夏生（本学文化科学系／教授）

③学内研究員：

吉村佳子（本学文化科学系／准教授）

④協力員：

藤川玲満（日本学術振興会特別研究員）

山名順子（博士後期課程・国際日本学専攻）

森暁子（博士後期課程・国際日本学専攻）

黄韻如（博士後期課程・国際日本学専攻）

村松さやか（博士後期課程・国際日本学専攻）

沖本清美（博士後期課程・国際日本学専攻）

渡邊さやか（博士後期課程・国際日本学専攻）

古屋愛子（生活科学部生活文化講座AA）

馬場幸栄（博士後期課程・比較社会文化学専攻）

飯淵由美（博士後期課程・比較社会文化学専攻）

木村迪子（博士後期課程・比較社会文化学専攻）

永井千文（博士前期課程・比較社会文化学専攻）

陳イ秀（博士前期課程・比較社会文化学専攻）

文寶卿（博士前期課程・比較社会文化学専攻）

⑤客員研究員：

ダニエル・ストリューヴ（パリ第7大学）

⑥活動経過：

(1) 催し

第1回 5月26日 『團扇絵づくし』 1ウ2オ
発表者 森暁子

第2回 6月30日 『團扇絵づくし』 2ウ3オ
発表者 木村迪子

- 第3回 7月28日 『團扇絵づくし』 3ウ4オ
 発表者 渡辺さやか
- 第4回 10月27日 『團扇絵づくし』 4ウ5オ
 発表者 古屋愛子
- 第5回 11月24日 『團扇絵づくし』 10ウ11オ
 発表者 沖本清美

(2) 刊行物

**8. 近現代日本におけるフランス文化の影響—文学、思想、芸術の領域において—
 (Influence of French culture on modern Japanese literature, thought and arts)**

- ①趣旨：明治期以降において、日本の文学者、思想家、芸術家たちが、どのようにフランスの文化（文学、思想、芸術など）から刺激を受け、さらに新たな自己の作品創造や思索の糧としたのかを考察する。
- ②プロジェクト担当者：中村俊直（本学教員）
- ④協力員：
 西岡亜紀（本学研究員）
- ⑤客員研究員：
 有田英也（成城大学教員）
 岩切正一郎（国際基督教大学教員）
 本間邦雄（駿河台大学教員）
- ⑥活動経過：
 今年度はプロジェクト全体としての催しや刊行物はありません。構成員のそれぞれが個人的に活動をおこないました。

9. 大工由緒書・儀礼書の研究

- ①趣旨：本研究では、三輪神道系統の大工儀礼書「番匠十六巻一流之大事」、『日本番匠記』系本の大工由緒書「番匠記」、唯一神道系と推定される「唯一神道上棟次第」の主に三つの儀礼書・由緒書を中心に、その所在調査を全国規模で行っていく。また、これらの所在調査を行っ

た上で、それぞれの儀礼書・由緒書の地理的分布について検討し、これまで解明された大工集団との比較を行う。

- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：
 宮内貴久（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）：
 神田由築（比較社会文化学）
- ④協力員（学生など）
- ⑤客員研究員（学外の教員など）：
 渡部圭一（早稲田大学・人間科学学術院・助手）
- ⑥活動経過

10. 現代における民俗学の再構築

- ①趣旨：現代における民俗学の再構築を目指して、以下の三つの課題の実現を目指す。①先鋭化：民俗学の先人たちを乗り越え、新たな理論の構築を目指す。②実質化：民俗学において自明視されていた知的前提や技法を明晰に表現し、他分野との対話と開かれた議論の土台を作り出す。③国際化：国際的な広がりをもった日本民俗の把握を推し進めるとともに、世界各国の民俗学との交流を確立する。
- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：
 宮内貴久（比較社会文化学）
- ③学内研究員（本学の教員など）
- ④協力員（学生など）
- ⑤客員研究員（学外の教員など）：
 古家信平 筑波大学 人文社会科学研究所 教授
 小川直之 國學院大學 文学部 教授
 小島孝夫 成城大学 文化史学科 准教授
 佐野賢治 神奈川大学 経済学部 教授
 菅 豊 東京大学 東洋文化研究所 教授
 徳丸亜木 筑波大学 人文社会科学研究所 教授
 八木透 佛教大学 文学部 教授

渡部圭一 早稲田大学 人間科学学術院 助教

加賀谷真里 日本学術振興会特別研究員PD

谷口陽子 専修大学経済学部 非常勤講師

⑥活動経過：

(1) 催し

2009年11月14日（土）13：30～16：40

お茶の水女子大学 大学本館 2階209室

テーマ 「社会」再考—村落研究から展望する
新しい社会像—

発表者

「契約講の地縁社会化」 岡山卓矢（東北学院
大学文学研究科博士前期課程）

「歴史の共有と「わたしたち」の範囲」 武井
基晃（筑波大学人文社会科学研究科 助教）

コメンテーター

石垣悟（文化庁伝統文化課）

小西公大（日本学術振興会特別研究員（PD）
／東京大学東洋文化研究所）

コーディネーター

渡部圭一（早稲田大学人間科学学術院 助手）

門田岳久（東京大学総合文化研究科博士課程）

11. 日米女性文化比較研究

(A Comparative Study on Women's
Culture in Japan and the US)

①趣旨：従来、下位ジャンルとして軽視されがち
であった、女性文化、とくにサブカルチャー・
ポップカルチャーの領域に着目し、女性たちの
文化発信者・受信者としてのactivityについて、
日米比較研究を行う。

②プロジェクト担当者：

菅 聡子（お茶の水女子大学・教授）

④協力員：

川原塚瑞穂（本学大学院人間文化創成科学研
究科博士後期課程）

武内佳代（同上）

⑤客員研究員：

アイリーンB.マイカルス・アダチ（米・エ
カードカレッジ・助教授）

土屋浩美（米・ヴァッサーカレッジ・助教授）

⑥活動経過：

1) 催し

1. 公開講演会

講師：アイリーンB.マイカルス・アダチ

演題：恋愛小説における日本的なロマン—ハッ
ピーエンドとは何か—

日時：2009年6月5日17：00～18：30

場所：お茶の水女子大学文教育学部1号館1F
大会議室

2. 公開講演会

講師：土屋浩美

演題：明治翻訳小説『小婦人』—お転婆ヒロイ
ンの登場—

日時：2009年6月26日17：00～18：30

場所：お茶の水女子大学文教育学部1号館1F
大会議室

3. 公開講演会

講師：青山友子（オーストラリア・クイーンズ
ランド大学・上級講師）

演題：よしながふみのマンガにみる〈食〉とジェ
ンダー

日時：2009年12月11日 17：00～18：30

場所：お茶の水女子大学文教育学部1号館1F
大会議室

12. 古典文学作品を対象とする文章・談話
分析

(Discourse Analysis and Text Analysis of
Japanese Classic Works)

①趣旨：いくつかの古典文学作品における言語
行動や言語生活に関する記述に注目し、文章・
談話分析の手法を用いて、近代日本語成立以前
の言語使用の具体的な様相をさぐる。

- ②プロジェクト担当者（センター研究委員）：
高崎みどり（本学教員）
- ③学内研究員（本学の教員など）：なし
- ④学内協力員（学生など）：石井佐智子（本学院生）、井之浦茉里（本学院生）
- ⑤客員研究員（学外の教員など）：染谷裕子（田園調布大学教員）、星野祐子（都留文科大学非常勤講師）
- ⑥活動報告：

1) 催し

月1, 2回程度研究会をもち、古典文学作品・資料類を材料として、言語使用の実態を示す描写について各自調査し報告した。また、その理論的枠組みとしての、テキスト・談話分析の手法についても検討した。

第1回 4月15日

古典文学作品・近代文学作品にみる「乙姫」の描写について 高崎みどり

第2回 4月22日

古典文学の国語学的研究について 染谷裕子

第3回 5月20日

抄物の文末表現について 石井佐智子

第4回 5月27日

源氏物語の会話表現について 星野祐子

第5回 6月10日

「御伽草子」の画中詞について 染谷裕子

第6回 6月17日

丸本歌舞伎における義太夫節の表現と機能 井之浦茉里

第7回 7月29日

ゲスト（立川和美流通経済大学准教授）を囲んでの研究検討会

テーマ“古典文学作品を対象とする文章・談話研究の可能性”

第8回 11月4日

古典文学に描かれた会話－談話分析的視点を取り込むことの提案 星野祐子

第9回 12月2日

中間総括と今後の方向性：日本語における文章談話の歴史 高崎みどり
メンバーの関連発表 井之浦茉里「人形浄瑠璃の歌舞伎化－同一演目における浄瑠璃の表現」（於：北京日本学研究中心・お茶の水女子大学共同ゼミ）

2) 刊行物

- ・高崎みどり「文章・言語生活の歴史」（高崎みどり・立川和美共編『ガイドブック：文章談話研究』ひつじ書房 2010年
- ・高崎みどり「インターテクスチュアリティの海に漂う乙姫表象」『遠藤織枝先生古稀記念論文集』三元社 2010年